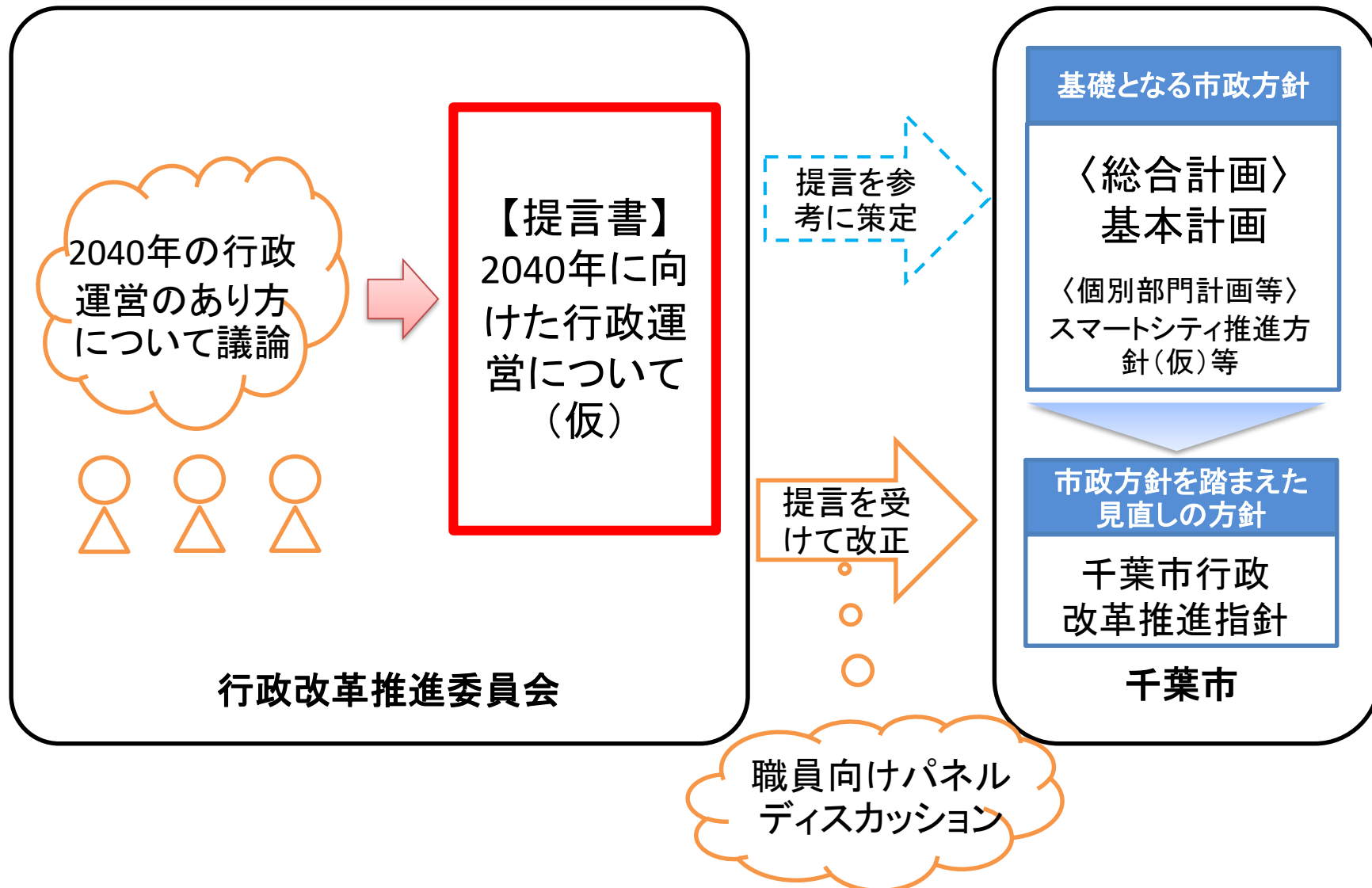


事務局説明資料

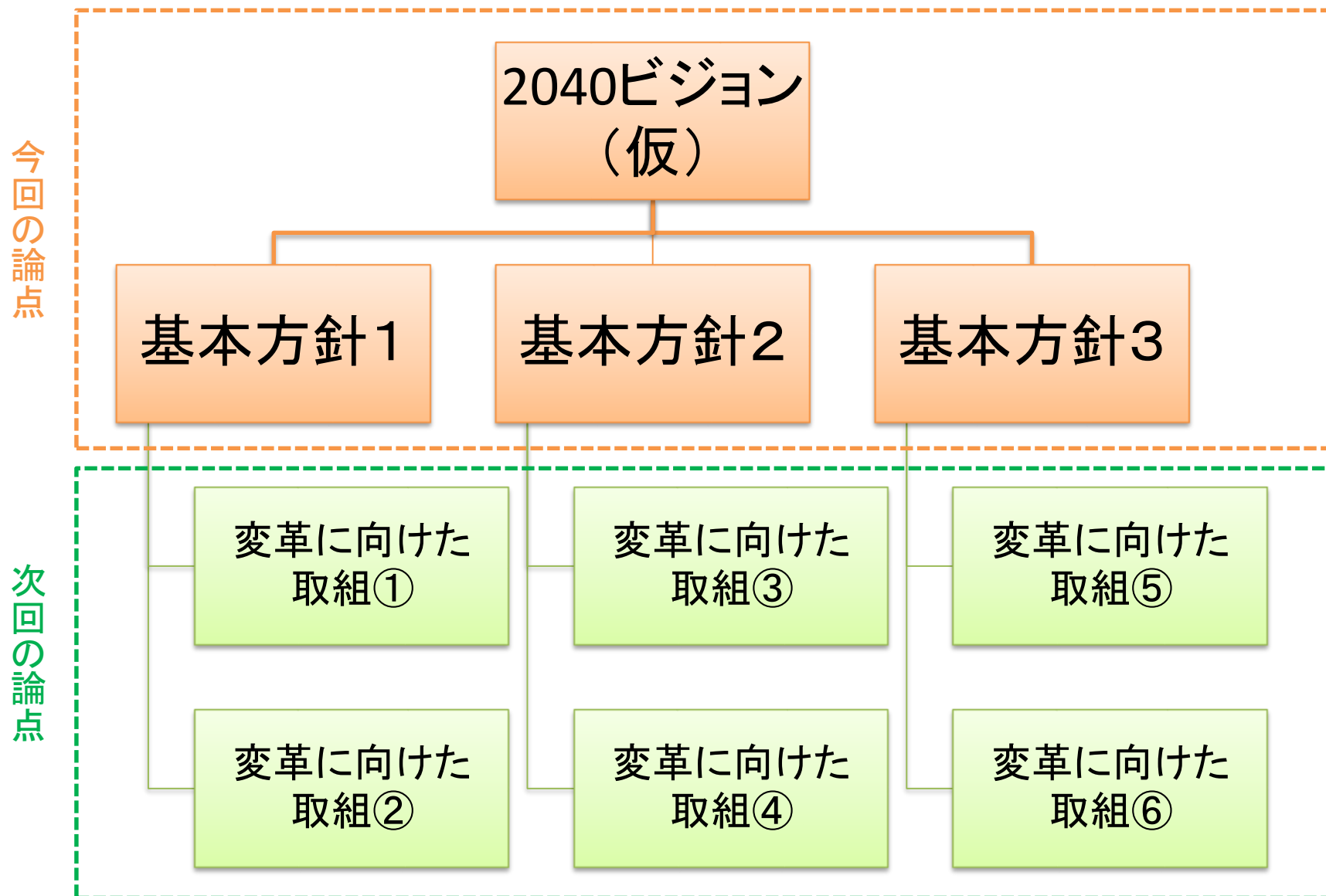
1 提言書について(1/2)

■ 提言書の位置づけ



1 提言書について(2/2)

■ 提言書の構成イメージ



■ 令和元年度第1回委員会でご提示した論点（参考）

● 将来の課題と社会の変化を踏まえ、千葉市役所はどう変わっていくべきか、「スマート自治体」というキーワードで、将来像を見据えた行政運営のあり方について考えたい。

【論点 1】

新たな公共私との協力関係を構築する役割（プラットフォーム・ビルダー）を担うため、どのように変わらなければならないか。

【論点 2】

限られた職員と財源の中でも、持続可能な形で行政サービスを提供し続けられるように、次世代先端技術をどのように活用していくべきか。

【論点 3】

論点 1・2 を踏まえ、職員にはどのような役割・能力が期待されるのか。

○2040ビジョン(仮)に関する委員意見(キーワード)

- ・多様な主体が問題解決を行う共創型社会【川島委員】
- ・職員が理解・納得できないような言葉があると「何を言っているんだろ」という反応になってしまう【里見委員】
- ・企業や市民組織が集まってくる社会を目指し、皆が向かっていく方向性(なりたい姿)を示す必要がある【庄司委員】
- ・千葉市らしさが加わるとなおい【関委員ほか】
- ・結果的に何をしたいのか明確に【村上委員】



○2040ビジョン(仮)の事務局案

すべての市民一人ひとりに最適化された行政サービスを多様な主体とともに提供するスマートな自治体

○「プラットフォームビルダーへの変化」に関する委員意見(キーワード)

- ・自治体のベーシックな部分である地域運営のプラットフォームにもっと若い方とか働いている方が参画できる要素をどう作るのが重要【芳賀会長】
- ・市と市民を掛け合わせる実験室(ラボ)的な環境を持つ【川島委員】
- ・プラットフォームにはお互いが信頼できる機能が必要【庄司委員】
- ・建設的なディスカッションができるコミュニティの育成【関委員】
- ・公共空間＝プラットフォームであり、スマート自治体(AIやICT)とは距離がある。これをどう繋ぐか。【沼尾委員】
- ・参画した結果が地域や市政に反映できる仕組み【村上委員】



○基本方針1の事務局案

市民・団体など多様な主体の参画を支援する

※参画の場面＝サービス提供、政策形成過程

○「次世代技術の活用」に関する委員意見(キーワード)

- ・スマートな行動・判断ができる都市。市民がリテラシーを持ち、自ら知り、地域を理解する【川島委員】
- ・データ活用を料理に例えると作るのは市民や団体、市はいかにいい素材を用意するかという思考【庄司委員】
- ・リモートでは見えないリアルな状況をどう把握するかが課題【沼尾委員】
- ・誰もが簡単に情報把握でき、自治体運営の正しい判断やシミュレーションができる社会。新たなサービスの実現【村上委員】



○基本方針2の事務局案

スマートな行動・判断のためのデータ利活用環境を整備する

※市、参画する主体、サービス提供を受ける市民すべてが利活用できる環境

○「職員に求められる役割や能力」に関する委員意見(キーワード)

- ・市民が色々自発的にやっている活動の中に入っていきやすい働き方。外に出て仕事ができるようなデジタル環境の整備。目的に合った場所で働く【庄司委員】
- ・失敗を恐れないチェンジマネジメント。今後職員がどう具体的にやっていくか、組織がどう変わるのかが重要【関委員】
- ・提言を示したところで掛け声だけに終わってしまう。職員に納得してもらうために、例えばある程度経験、職責のある職員でワークショップを行うのもよい【沼尾委員】
- ・デジタルに対応した職場環境及び制度の変化。職員の意識改革、それに合わせた制度改革は非常に重要 【村上委員】



○基本方針3の事務局案

地域に飛び出す職員を育成する(意識改革、働く場の変革)

※自前提供主義に捉われない職員意識の変革、創出(オープンイノベーション)

- あるべき姿
- ・より個別のニーズに対応した行政サービス
 - ・多様な主体が問題解決を行う共創型の社会

2040ビジョン（仮）

すべての市民一人ひとりに最適化された行政サービスを多様な主体とともに提供するスマートな自治体

基本方針 1

市民・団体など多様な主体の参画を支援

- キーワード
- ・参画した結果が地域への還元や市政に反映できる仕組み
 - ・市と市民を掛け合わせる実験室のような環境づくり
 - ・地域活動の担い手不足の解消

基本方針 2

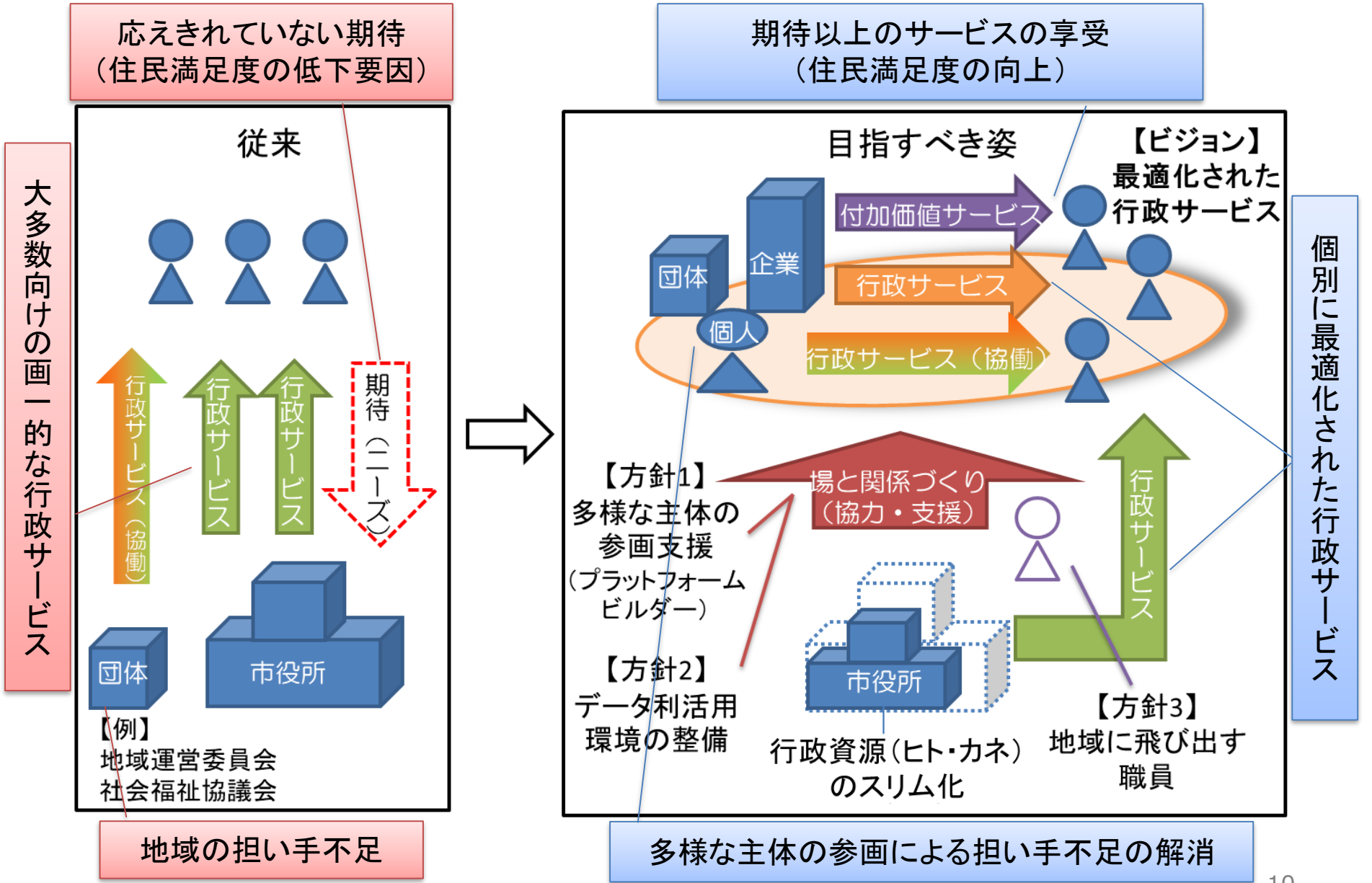
スマートな行動・判断のためのデータ利活用環境を整備

- キーワード
- ・誰もが簡単に情報把握できる社会
 - ・データ利活用による新たなサービスの創出
 - ・市、参画する主体、サービス提供を受ける市民全てが利活用できる環境

基本方針 3

地域に飛び出す
職員の育成
～意識改革、働く場の変革～

- キーワード
- ・働き甲斐のある職場づくり
 - ・時間や場所を有効に活用
 - ・外に出て関係づくり、場づくりを担う役割
 - ・新しい働き方が評価される仕組み



これまでの各委員意見を踏まえ作成した事務局案をベースに以下の3点が本日ご議論いただきたい論点になると考えております。

(1) 提言書の構成

(2) 2040ビジョン (仮)

(3) 基本方針

次回の変革に向けた取組の検討の前提として、事前に整理すべき論点について

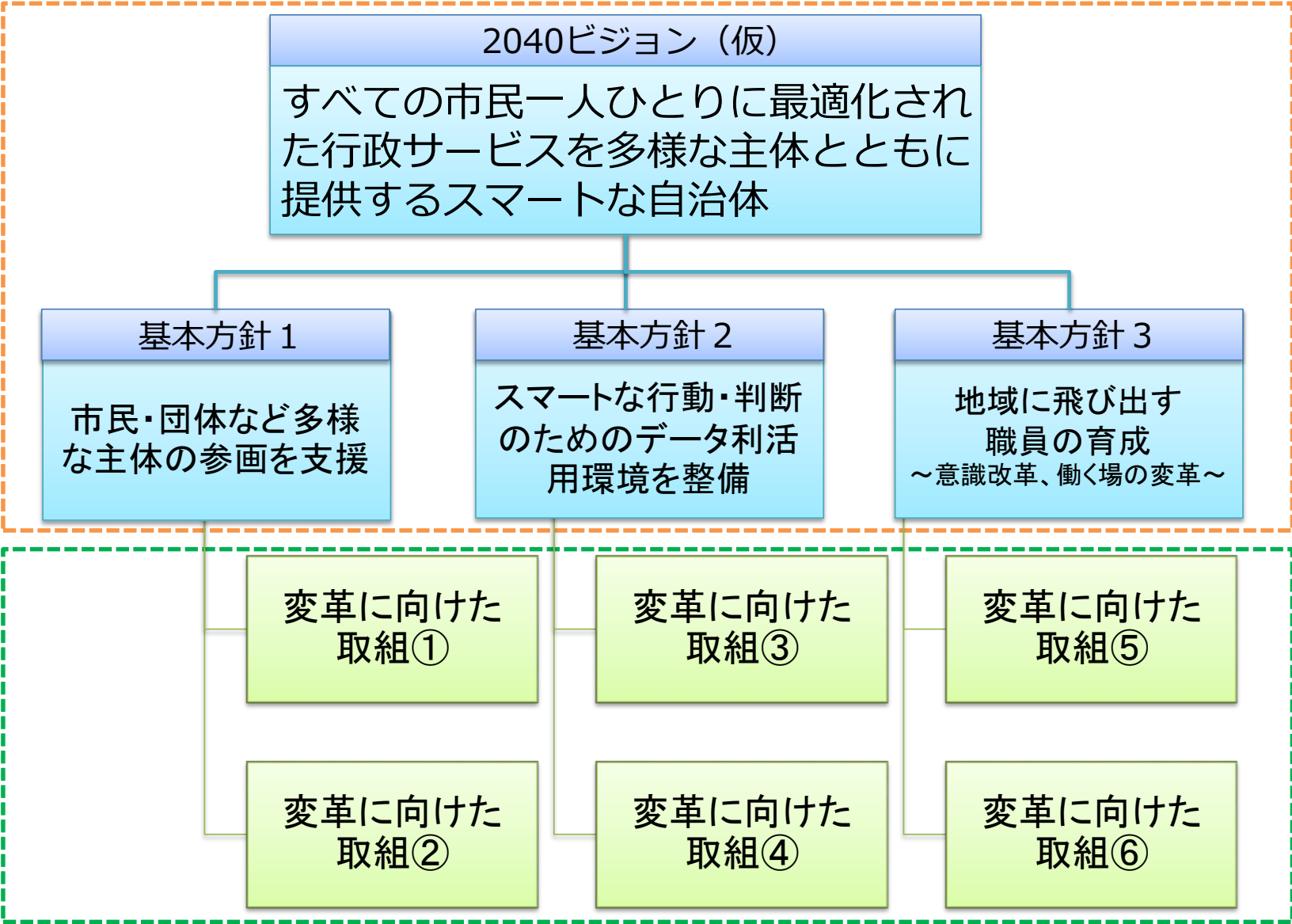
- 1 「今後、行政が何をどこまで担うのかについて考える必要がある」という委員意見があったことから、次回に向けて考え方の意識合わせをしたいと考えております。
 - (1) 行政が自ら担うべきサービスの範囲について
 - ・ 多様な主体が担うサービスと行政自身が提供するサービスの区分けの考え方について
 - (2) 多様な主体が参画するために必要な行政支援について
 - ・ 必要な行政支援とは何か、どこまで必要か。
- 2 その他、事務局としては基本方針のキーワードが変革に向けた取組のご議論のベースになると想定しておりますが、このキーワードについて過不足等がないかご議論いただきたいと考えております。

※本日ここまでご議論できなかった場合は、後日個別ヒアリング等で意見照会等させていただければと考えております。

■ (提言内容のイメージ)

今回の論点

次回の論点



5 今後のスケジュールについて

日程	実施内容
10月～11月頃	第2回に向けた事前ヒアリング ・ 変革に向けた取組の論点整理
12月中	令和2年度第2回行政改革推進委員会 ・ ビジョンに向けて行政運営をどう変えていくべきか (変革に向けた取組に関する議論)
1月～2月	第3回に向けた事前ヒアリング ・ 提言書作成にあたっての確認等
2月～3月	令和2年度第3回行政改革推進委員会 提言内容の確定